

第3回 全国都市緑化かわさきフェア基本計画懇談会 議事録

1 開催日時 令和4年2月7日(月) 午前10時00分～午前11時30分

2 開催場所 川崎市役所 第3庁舎18階 大会議室

3 出席者

福田紀彦 川崎市長

<懇談会委員>

池田航介 Perma Future 代表

今井伸之 川崎市造園建設業協同組合 副理事長

蕪木沙耶 令和3年成人式サポーターグループ

佐土原 聡 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 教授

鈴木賢二 川崎商工会議所 専務理事

反町充宏 一般社団法人 川崎市商店街連合会 理事・青年部長

田代直輝 セレサ川崎農業協同組合 営農経済本部 販売対策部 都市農業振興課 課長代理

長井典子 川崎市立小学校長会 会長

萩原ひとみ 一般社団法人 川崎市観光協会 理事

涌井史郎 東京都市大学 特別教授

和城信行 神奈川新聞社 川崎総局長

渡辺広之 京都芸術大学芸術教養センター 客員教授

<オブザーバー>

野村 亘 国土交通省 関東地方整備局 公園調整官

<共催者>

榑野良明 公益財団法人 都市緑化機構 専務理事

<事務局>

磯田博和 川崎市建設緑政局長

木村博彦 川崎市建設緑政局緑政部担当部長

藤島直人 川崎市建設緑政局緑政部緑化フェア推進担当課長

- 4 内 容 (1) 開 会
(2) 開会あいさつ
(3) 全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子について
(4) 意見交換
(5) その他
(6) 閉 会
- 5 配布資料【資料1】全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子 概要版
【資料2】全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子
【参考資料1】全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子の策定に伴うパブリック
コメントの実施結果について
【参考資料2】第2回懇談会における意見概要と対応
【参考資料3】全国都市緑化かわさきフェア基本計画懇談会 委員名簿
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人の人数 1名
- 8 発言記録 次のとおり

【(1) 開会】

○木村担当部長：

それでは、定刻になりましたので、ただいまから「第3回全国都市緑化かわさきフェア基本計画懇談会」を開催させていただきます。

本日は、大変お忙しい中、当懇談会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、当懇談会の事務局を務めさせていただきます、建設緑政局緑政部担当部長の木村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。以降、着座にて失礼をいたします。

本日の会議にあたりまして、新型コロナウイルス感染症の拡大防止への対応といたしまして、検温、手指消毒、マスク着用にご協力いただきありがとうございます。マスクを着用している関係で、若干、発言等お聞き苦しい場面もあろうかと存じますが、御理解いただきますようお願いいたします。

まず、議事に先立ちまして、本日の懇談会は、前回同様、川崎市審議会等の公開に関する条例に基づき、公開とさせていただきます。

また、本日の会議録に個々の発言者氏名を記載することをあらかじめ御了解ください。

なお、本日の傍聴者は1名です。併せまして、事務局以外の本市職員も出席しておりますことを御了承ください。

それでは、会議に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。本日の次第、座席表に続きまして、

- ・資料1 A3よことじ 「全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子概要版」
- ・資料2 A4たてとじ 「全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子」
- ・参考資料1 A4たてとじ 「全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子の策定に伴うパブリックコメントの実施結果について」
- ・参考資料2 A4よことじ 「第2回懇談会における意見概要と対応」
- ・参考資料3 A4たて 「全国都市緑化かわさきフェア基本計画懇談会 委員名簿」

最後に、1月18日火曜日に行いました、定例記者会見の資料とその様子を机上に配布させていただきます。

資料の不備などがございましたら、会議の途中でも構いませんので、事務局までお申出くださいようお願い申し上げます。

それでは、次第2「開会」にあたりまして、福田市長より御挨拶申し上げます。福田市長、よろしく願いいたします。

【(2) 開会あいさつ】

○福田市長：

改めまして、おはようございます。皆様、大変お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

おかげさまで、皆様からいただいた様々な御意見をもとに、基本計画骨子をとりまとめることができました。この場を借りて御礼を申し上げたいと思います。

先月の1月17日に国土交通大臣から令和6年度の全国都市緑化かわさきフェア開催の同意をいただき、開催が正式に決まりました。これまでの御協力に改めて感謝すると同時に、本日も有

意義な会議にしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○木村担当部長：

ありがとうございました。福田市長におきましては、引き続き、懇談会に御出席いただきますので、よろしくお願いいたします。

【(3) 全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子について】

(資料1の説明～省略～)

【(4) 意見交換】

○涌井委員：

通例、緑化フェアは一つの会場で開催しています。県単位では、例えば、くまもとフェアや信州フェアのように、会場をいくつか設定する例もありますが、従来型の博覧会形式で盛り上げるようなやり方をとっています。しかし、かわさきフェアは市単位の開催でありながら、地理的にも時期的にも分散させる形にしており、非常に意欲的な取組として、ぜひ成功させてほしいと思います。ただ、懸念しているのが“分散”することにより“散漫”にならないかということです。また、そうならないようにする方法について、まだ知恵が出されておらず少し残念であり、今後、実行委員会で検討すべき最大の課題ではないかと思っております。

川崎市は、いわゆる重厚長大産業である製造業から、先進的なIT産業等までの拠点になっています。そこで提案ですが、この特性を活かし、分散する各要素の繋がりを感じられる、ITを活用した新しいプレゼンテーション方法を重要視すべきではないかと思っております。おそらくこれから、携帯の進化を見れば分かるように、情報・ビジュアルの世界は瞬く間に変化していくと思っております。例えば、富士見公園にいながら、地理的に離れている生田緑地の姿を臨場感ある形で見ることができたり、市内に点在する協賛・連携会場へバーチャルを通してアクセスできたりする。そうした新たな楽しみ方を提案することが大事です。川崎市には、この分野を得意とする民間企業がたくさんいらっしゃいます。

さらに、例えば、防災やエリアマネジメントといった将来の事を考えれば、ITの活用が単なるかわさきフェアの仕掛けだけで終わらず、行政にとって非常に大きなリソース(資源)になる可能性もあります。ここまで踏み込めば、これは“散漫”ではなく“ネットワーク”なんだと言える。こうした知恵が問われているのではないかという気がいたします。以上です。

○木村担当部長：

ありがとうございます。以前よりITを活用した取組の必要性を御指摘いただいておりますが、改めて具体的に検討してまいりたいと思っております。

和城委員からも以前、共通イメージを持てるように、例えばSDGsのアイコンのようなものはどうだろうか、といった御提案をいただいていたかと思っておりますが、先ほどの涌井委員の御発言を受けてでも結構ですし、あるいは別の切り口でも結構ですが、いかがでしょうか。

○和城委員：

共通コード等を設定し、具体化していく作業がこれから始まるのかなと思っています。

基本計画骨子を拝見する度に、ブラッシュアップされていると感じますが、やはり行政が実施することもあるのか、教条的というか、真面目なものになっています。ここから、涌井委員がおっしゃったネットワークなどの様々な仕組み・仕掛けを検討していくかと思いますが、これらがどう“楽しい”のか、みんなが喜ぶのか、といった点をどんどん具体化していくことが重要と考えます。人を呼び込む上では、みんなに楽しんでもらうということ、この“楽しい”という点が重要だと考えます。メイン会場を3つ設定したことや、懇談会でのいろいろなアイデアを聞きながら、楽しそうだなと思えてきているので、それを今後具体化させてほしいです。

○木村担当部長：

ありがとうございます。今後、如何に市民を巻き込んでいくことができるかが本当に重要で、市民目線でかわさきフェアを考えることが求められますので、この点について、こんなことをやったら面白いとか、こういうことをやってみたいなどの御意見をいただければと思いますが、様々な活動をされている若手の方々から、いかがでしょうか。

では、池田委員お願いします。

○池田委員：

まとまって進んできており、すごいなと思いつつながら基本計画骨子を拝見しました。

イメージ像を見て、とても楽しそうだと思うと同時に、オリンピックでも話題になりましたが、フードロスやゴミがたくさん出ることの懸念もあると思います。この点に対しても、食品ロス対策やリユース・リサイクル等がきちんと基本計画骨子に書かれており、具体的な対策がなされることと思えました。

ゴミ問題に対して、例えば、3会場は「ゼロ・ウェイスト」にする、必ずゴミは出さないようにする等を掲げて取り組むことはいかがでしょうか。今の段階から、ゴミを有効活用した仕組みの検討やコンポストにして緑に返すなどのゴミを削減する取組を、学生や地域の人も巻き込みながら実施し、かわさきフェアを機に、未来の川崎の環境に繋げていくというのは面白いのではないかと思います。

○木村担当部長：

ありがとうございます。かわさきフェアでは、緑化フェアの“緑”を“みどり”として対象を広げ、環境に係る取組にも注力していきたいと考えますので、御意見いただいた視点も大事であると考えます。

今のお話を発展させてでも結構ですし、また違う切り口でも結構ですが、いかがでしょうか。

反町委員お願いします。

○反町委員：

まず、基本計画骨子を本当にありがとうございます。ものすごいボリュームで、書いてないことを探すのが大変なくらい、様々なことを網羅されていると思います。

この事業はある意味では SDGs そのものだと思います。今後、もっと SDGs と結び付けていく作業をやっていたらよい、というのが一つあります。

川崎で育ち、川崎が大好きな人間として、緑化フェアをここ川崎でやるにあたり、盛り込んでいただきたい内容が全部入っていると思います。この内容であれば、身内や関係者だけでなく、川崎市外の方にも胸を張って「これだけのことを川崎で、川崎の資源を活かしてやるんだよ」と PR していけると思います。

これから、様々な川崎の資源とそのつながりを活かして取組を進めるにあたり、ぜひ商店街も含めて検討してほしいと思います。大型商業施設などの便利なお店ができたとしても、商店街にしかできないサービスや果たせない役割があるという話を商店街の方々とずっとしてきているところです。お買い物の用事だけでなく、商店街にちょっと立ち寄って、子どもからお年寄りまでコミュニケーションをとれる、最も身近な存在が商店街であると考えています。

かわさきフェアにおいては、商店街の価値を今一度とらえて、商店街にしかできないことや商店街の魅力を活かした取組を展開していただきたいと思います。かわさきフェアには様々な事業があると思いますので、できるだけそこに商店街や川崎の事業者さんを組み込んで、お仕事に繋がる形でできたらいいのかなと思います。

最後にもうひとつ、IT の活用が重要だと思います。以前から YouTube などの活用もよいのではという話をしていますが、例えば AR(拡張現実)などの技術は、広報 PR・情報の発信手段としても、実際のイベント会場での体験型のコンテンツとしても活用可能かだと思いますので、取り入れられればよいと思います。

○木村担当部長：

ありがとうございます。いただいた御意見は、いずれも市民が楽しめるような仕掛けかと思えますので、ぜひ考えていきたいと思います。他にいかがでしょうか。

涌井委員、お願いします。

○涌井委員：

今、意見のあった商店街との連携ですが、確か1年くらい前にアプリを作りましたよね。これを活かして、例えば自分の行動が都市緑化や SDGs にどう貢献しているのかが、アプリでポイント化されて、それを貯めれば商店街の商品が割引になるなどの仕掛けを作る。あるいは、逆に事業者に対して都市緑化の観点から、例えば、もっと花や緑を取り入れようといった評価のようなことを市民にさせていただく仕掛けも考えられます。そうすることで、単なる行政主導の市制 100 周年の催しにとどまらず、市民が“自分事”として参加できると思います。アプリなどのバーチャル空間からの参加がいろいろなつながりを作り、そのつながりがレガシーになっていく。レガシーは有形だけでなく無形のものもあるという考えで、それを如何にして形成するかが重要です。

市民がかわさきフェアに対して、自分の家や暮らしと密接な関係があると共感を持てるようにする方法としては、例えば、川崎市や各会場を家に見立てることなどが考えられます。家の目の前には街並みを形成する緑があって、そこから家に向くと家の顔となる玄関があり、奥にはリビングルーム等の皆で楽しむ空間、ベッドルーム等の個の空間、それから台所と、その裏にはキッチンガーデンがある。このような家を各会場に重ねるような感じで、市民を惹き込み、共感を生

み出すことが重要と考えます。こうしたデータは将来の川崎市の環境教育に有効活用できるのではないかと思いますので、ぜひ力を入れてほしいと思います。

○木村担当部長：

ありがとうございます。今までにない新しい視点で、非常に面白い取組だと感じますので、ぜひ考えさせていただきたいと思います。

他にいかがでしょうか。以前の懇談会で、萩原委員から、街なかの様々なお店との連携について御意見をいただいておりますが、反町委員や涌井委員のお話しを受け、御意見いただけますでしょうか。

○萩原委員：

参加型がとても大事であり、それには、早くからエントリーできるようにすることが必要です。今回、協賛・連携会場として、市内にいろいろな会場を設けるにあたり、企業や商業施設などとも連携できると考えます。また、商店街や飲食店、ホテルの中のレストランなどにも参画いただけるよう、最初からエントリー型にして、例えばアプリを使ったクイズなどの楽しめる仕掛けを作る。フェアにおいては、各会場の様子を観覧できることも必要ですが、そこから実際にその場所まで訪れるという行動にまでつなげることが、やはり素敵かなと思います。バーチャル上で会場の様子を見たら、今度はそこに行ってみたい、参加してみたいと思える面白い仕掛けを作る。

例えば、アプリ上でポイントが貯まり、それが会場で何かと交換できたり、商店街やレストランなどでサービスを受けることができたり等の仕組みが出来れば、次につながる参加型の仕掛けになると思います。これをきっかけに、大きな流れやつながりができて、将来に向けて川崎市が変わっていく契機になるのではと期待しております。

また、エントリーした事業者は、例えば、レストランの卓上に共通のアイコンなどを置いて、そこからアプリ等を誰でもダウンロードできる、SNS でつながるなどの仕組みがあればより面白いと思います。

○木村担当部長：

ありがとうございます。デジタルをうまく活用しつつ、やはり“緑化フェア”ですので、実際にみどりや街に触れることが大事かと考えますので、技術に溺れないように気をつけたいと思います。

早めのエントリーや巻き込みという重要な御意見をいただきました。以前から佐土原委員や渡辺委員からも、そうした御意見をいただいていたかと思いますが、いかがでしょうか。

渡辺委員、お願いいたします。

○渡辺委員：

初動を早く、おっしゃる通りだと思います。

言葉の確認ですが、“協働”と“共創”は何が違うか、我々は共通認識を持っていますが、市民の立場ではどうでしょうか。根本はどちらも同じですが“協働”は一つのツールをもって皆さんを主体としながら、共に働くこと。“共創”は、新たな価値を生み出すこと、英語だとコ・クリエ

ーション (Co-Creation) ですから、“価値創造” 今までにない新しい価値を生み出すことです。仕組みは協働ですが、そこからより踏み出すイメージですね。両方とも必要なものですが、初動の際に一度、オリエンテーションを設定して、関係者全員で確認する必要があります。これは、実行委員会の役割ですね。協働と共創、エントリーされた皆さんが、それらをどう採用するか、しないか、もちろん各々にやっけてよいのですが、オフィシャルな枠組みの中での協働・共創の仕組みとしてです。そこから、実際に取り組んで感触がよければ継続する、あるいは、行政側で少し引き取って検討するなど、協働・共創の取り入れ方や、次の取組へのつなげ方について、100年の歴史を未来につなげることを理念とする以上、こういった点まで考えた方がいいかと思いました。

また、広報について、“川崎市民” とすると一義的ですが、かわさきフェアを幅広くどこまでの範囲でプロモーションをかけていくのか、実施計画段階での検討事項かと思いますが、しっかり考えることが必要だと思います。

御意見にあったチケットの話。コア会場だけで回すのではなく、商店街なども含めた連携を進めるプログラムやシステムにおいては当然、新しいデジタル技術を取り入れていいと思います。連携にあたっては何らかのインセンティブが必要だと思いますので、これも早めに考える必要があります。

○木村担当部長：

ありがとうございます。御指摘いただきましたとおり、仕組みづくりをしっかりと考え、早めに多くの方に参加いただき、それから、その先につなげる仕組みを早急に組み立てていきたいと考えております。

佐土原委員、お願いします。

○佐土原委員：

早めに巻き込むことは、皆さんが、自分のこととしてかわさきフェアを迎えられる非常に大事なチャンスだと思います。加えて、既存の様々なネットワークをエンハンス（強化）するような形で巻き込むことで、これがレガシーになって開催後も存続していく、あるいはこれまで以上に活動が活発化すると思われま。

それから、会場が分散していることは、すごく大事なことだと思います。川崎市には都市的な場所から自然豊かなところまで、様々なみどりの環境があり、その数だけ多様な関わり方があるので、これらをどう位置づけてわかりやすく示すかが重要です。IT 技術を活用して、例えば最初の一つに触れたら他のものも見てみたい、という気持ちになっていただけるような、連鎖を生むような仕掛けを、全体のつながりや関係する要素を整理・発信しながら取り組まれるとよいのではないかと思います。

市内での取組として、今まさにいろいろな議論がなされていますが、ここから市外にも目を向けて、大きなうねりを起こしていくことを期待しています。外とのつながり、川崎周辺をはじめとして、市外の様々なものをどうやって巻き込んでいくのか、具体的なアイデアはまだないのですが、ぜひよろしくをお願いします。

○木村担当部長：

ありがとうございます。川崎市での開催ということで、大前提として市民の参画を大事にしたいと考えておりますが、“みどり”のカテゴリーで見れば行政の枠は関係ないことですので、市外とどうつながるかも含めて、“つながり”を重視していきたいと思っております。この点で、どなたか御意見ありますでしょうか。

涌井委員、お願いします。

○涌井委員：

少し気になる点があります。一番つながってほしいのは、川崎の過去の100年と未来の100年だと考えます。川崎という街が、これまでの100年の歴史をどのように刻んできたか、みんなが共通認識として持ち、次の100年をどんなものにするか、というのが一番のポイントのはずですが、この点が基本計画骨子にはあまり書かれていない。

川崎は、二ヶ領用水の誕生もそうですが、みどりに関して苦闘してきた歴史があり、さらに工業都市として工場が立地していった時代、また、私が子どもの頃には首都圏の嗜好品、例えば、多摩川梨、ランやシクラメンなどの百貨店に並ぶような高級な花卉栽培を行う都市の時代、そしてさらに、産業都市として生まれ変わってきました。こうした歴史をみんながちゃんと振り返り、その中で失ったもの・得たもの、そしてそれを未来へどうつないでいくのか、かわさきフェアを絡めてストーリーを作ることが大事です。そうした認識がしっかりできると、未来へ向けて自分たちが何をすべきか考え、産業界や国家が豊かになると思っています。この“豊かになる”ということに一生懸命、経済投資をしてきた対象に川崎市がありました。これからは、みんながそれぞれのウェルビーイングを考え、緑や花という世界の中で、手を取りながら豊かな未来を作っていく段階であると、合意形成をすることが重要です。過去の100年をどのように未来につなげるか、もっと力を入れてほしいのですが、この点はどう考えていますか。

○木村担当部長：

ありがとうございます。川崎の歴史と未来について、以前、生物多様性地域戦略を策定する際に、生物多様性の観点から、かつてどういった地形や文化、自然があったか等の点を踏まえて検討を行ってまいりました。かわさきフェアにおいても同様に、これらの点をもう少し掘り下げる必要があるというのは、御指摘の通りだと思いますので、検討を深めていきたいと思っております。

○福田市長：

確かに、おっしゃる通り、なぜ100周年の年にかわさきフェアを開催するか、それは単なる盛り上げるポイントだからというわけではないと思っています。川崎市はこれまで“利便”をすごく追求し、成長してきたと思います。今でも市民に対して、川崎のどこがいいか、と聞くと必ず「便利」という単語が出てくる。例えば、住宅開発は何の為なのかと言ったら、やっぱり労働力を供給するためであり、このように産業の発展のために利便性に価値を置き、ずっと追求してきた。ここから、大きな転換期として、涌井委員の御意見にもあったウェルビーイングなど、利便だけではない価値が大事になってくる。そこに気づいたからこそ、川崎のような産業都市がみどりに大きな価値を見出すことに意味があるのだ、という点をうまく伝えることが重要と考えます。

涌井委員からいただいた、川崎市の企業が持つ様々な技術、ネットワーク、IT を活用してはどうかという御意見に関連して、先日、川崎市において 5G の実証実験を行った際の話をお聞かせいただきます。実証実験はローカル 5G を医療現場で活用するためのもので、聖マリアンナ医科大学病院の救命救急センターで実施したのですが、5G により救急隊や病院の医師等の専門の人たちが、患者が救急車に乗った瞬間から同じ画像を共有できるようになりました。これまでは、病院に搬送されるまで患者の容体は言葉でしか伝わっていなかったのが、初めて映像で、しかも患者が救急車に乗った瞬間からその容体が分かるようになった。そうすると、病院に着く前から治療を始めることができるわけです。何人もの専門医が集まる必要があったものを、バラバラに離れたところからの確かな指示ができる。これを現場で見て、驚くべき価値だと思いました。単純に高速回線がすごいというだけでなく、映像を別々の場所から共有し、ある種の新しい空間が出来ているという、もう、こういう時代なのかと、ちょっとびっくりしたのです。これから 5G がどんどん普及するかと思いますが、これを、みどりの分野でどう展開するか。先ほどから御意見をいただいているように、これまでアナログのみだった行動をデジタル化することによって、みんなに見てもらえるものになる。例えば、店先で買い物をする、小銭を募金するといった超アナログな行動をデジタル化することにより、各々の体験を共有・体感することができる。あるいは、先ほど池田委員からお話しのあったエコな活動のような、かわさきフェアで共有すべき世界観をどうやってリアルタイムに見せていくか。みんなのアナログな行動が、この世の中をどう動かしているか、新しい技術で共有することによって、面白く展開できるのではないかと思います。市民の巻き込み方や、ネットワークをうまくつなげる方策について、専門の方たちがたくさんいらっしゃるので、面白いことを考えてみたいと思っています。

それから、商店街は、今年から一気にデジタル化が進むと思います。2年後は、今より遥かにデジタル化が進んでいるのではないかと思います。そうすると面白い仕掛けをもっとやりやすくなる。基盤が整うことを見越した計画検討が必要になると思います。

それから、渡辺委員から御意見いただいたオリエンテーションはすごく大事だと思いました。懇談会で議論していると、みんな感覚的にそろってきていることからわかるかと思います。年明けから様々な企業のトップにかわさきフェアをぜひ一緒に、という話を始めていますが、コンセプトや、視点、目指すところなどを全員で共有しないと、おそらく、それぞれに受け止め方が異なり、バラバラ感がすごいただろうと思うので、企業だけでなく市民の皆さまもそうですが、認識の擦り合わせが不可欠かと思っています。

あと、これは一昨日の話ですが、川崎市の取組で「低 CO2 川崎ブランド」というものづくりの表彰を毎年実施しているのですが、その中のベンチャー企業で、農業に焦点を当てた AI 技術の活用に取り組んでいる企業があります。AI を使って天候に応じた温度管理や施肥の調整といった、水と栄養を完璧にコントロールすることを実現しています。必要以上の肥料は環境汚染にもつながります。こうした技術を農業都市でもない川崎市の企業が開発し、将来的には世界に展開したいとお話をされていました。実はこれは明治大学の生田キャンパスとの協業で始まったプロジェクトなのです。かわさきフェアは、市内の技術が緑や農業にどう関われるか、発信していくいい機会です。先ほどの佐土原委員の御意見である、市外をどう巻き込むかについても、やはり川崎市で生まれた技術がどのように市外、県外の皆さまに貢献できるか、緑化フェアは全国に影響力のあるイベントですので、絶好の機会です。

それと、プロモーションにおいて、鉄道の力は相当強いものであると思います。JR 東日本、東急電鉄、京浜急行電鉄、小田急電鉄の4社の社長さんには、すでにかわさきフェアの話をしておりまして、次はやはりオリエンテーションを行って、目線を合わせていくことが必要な段階です。

また、3会場の他に重視していきたいのは、民間施設や公共空間をいかに活かして、うまく伝えるか、そこが勝負だと思うので、民間のみ皆さまに知恵をいただきながら進めたいと思います。

○木村担当部長：

ありがとうございます。福田市長からいろいろな視点でお話をさせていただきましたが、キーワードとして新たな技術ですとか、事例として、農業の視点も入っていましたが、その点で御発言をいただければと思いますが、田代委員いかがでございますか。

○田代委員：

JA セレサ川崎の田代です。よろしくお願ひいたします。

前回の懇談会で、3月は通常、市内産の花や植木があまりない時期で、栽培管理等の調整が必要というお話をいたしました。基本計画骨子において「木や花の見ごろを踏まえて、秋、春の季節ごとに開催期間を設定」とする記載がありましたが、3月は旬の時期ではないため、表現を少し変えていただいた方がいいかと、農協内でも話しておりましたので、御検討いただければと思います。

基本計画骨子において、各区の特色として農業に触れていたり、協賛・連携会場として黒川・早野・岡上などの里地里山、農地が挙げられていたり、(装飾的要素である)花・植木と農業とをどうリンクさせるのかと思っていましたが、御意見にあったアプリなどは、よいアイデアかと感じました。農協では、いろいろな形で農業体験を行っておりまして、そこにアプリを用いて、農業体験をしたらポイントがたまる仕組みを作るなども良いかと思いました。農協ではなく生産者が行っている果物等の収穫体験として、いちご狩りや多摩川梨のもぎ取り体験などもありますので、これも含めた農業体験全般にアプリを絡められれば、かわさきフェアの前から多くの人に参加してもらえるとともに、農業も一緒になってやっていけるいい方法だと思いました。

農協としては、花や植木などの植物材料に限らず、農業全般において、様々な形で協力していければと思いますので、ざっくりとしたイメージでも形が決まれば、生産者とともに栽培調整などの協力をしていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

○木村担当部長：

ありがとうございます。基本計画骨子に記載した「各区の花」ですが、これは区民投票等で定めた、各区の木や花を指すものとして使っております。一部、夏場の花もあるのですが、基本的にはモモやビオラ、パンジー、花そのものより紅葉を楽しむ意味合いで、イチョウやハナミズキなどもございます。ただ、御指摘いただきましたとおり、確かに花の旬の時期という点で、もう少しアピールの仕方に気を付ける必要があるのかなと思います。

また、従来の緑化フェアは花で装飾された会場のイメージが強いですが、かわさきフェアでは、様々な場所にある多様なみどりや、市民の身近な活動にスポットを当てたいという思いや、市民が実際にみどりに触れ、さらなる行動につなげていくきっかけとしていきたいという思いがあり

ます。この点で農業もぜひ巻き込んでいきたい、引き続き御協力いただければと思います。

他いかがでございましょう。商工業の観点で、鈴木委員、何か御意見をいただけますでしょうか。

○鈴木委員：

皆さんの御意見と、北から南まで場所ごとの特性があること、それに合わせて、交通網等のインフラが働いていること、また、私自身の経験として、過去に藤子・F・不二雄ミュージアムの整備や等々力陸上競技場の改修などに携わったことなどを踏まえると、昔から存在している緑地等はしっかり捉えていると思うのですが、今度は、将来といった視点で、来年再来年のことを考えていくと、皆さんや市民の方々がお考えになることは、もっと大きな、川崎にしかないものを少しずつ組み込みつつ、これにプラスして、これまでの歴史の中で成しえなかったものを洗い出すこと、例えば、川崎に行くと潤いがあるとか、といったことかと思います。そういったベクトルが出てくるといいかなと、皆さんの話を聞いていて思いました。何かお手伝いできることがあれば、調整させていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○木村担当部長：

ありがとうございます。川崎市の発展の中で、工業化というのは大きな要素ですが、昭和45年ぐらいから、市内の名だたる企業の皆さまに参画いただき、工場緑化として、緑を増やす取組を行ってきた経緯もあります。この点でも、かわさきフェアを契機にさらなる連携につなげたいと思っておりますので、ぜひ御協力をお願いしたいと思います。

では、蕪木委員をお願いします。

○蕪木委員：

過去から未来の100年につなぐ、という点で、若者の立場から感じたことですが、基本計画骨子の5ページ「川崎の緑のあゆみ」に書かれている、緑が減少する中で住民運動が起きたり条例が制定されたり、そういった内容を読み、川崎のみどりは市民が大切にしてきたから残されているのだと感じました。こうした過去の経緯を、今の若者は知らないと思うので、市民のみどりの保全に係る取組や歴史を若い世代にも広く伝えて、今あるみどりの資源は、ずっと当たり前存在してきたものではないということや、都市の中にある豊富な緑のありがたみについて、かわさきフェアをきっかけに再認識できたらいいなと思いました。

かわさきフェアは、2024年に開催されますが、2025年ぐらいから生産年齢人口が減少に転ずることが川崎市でも懸念されていて、2024年というタイミングで、次の100年に向けたイベントを開催できることは、これから社会人として社会に出ていく立場から、大きな意味があるのではないかと感じています。

働く世代が、日常に緑を取り入れるなどして生き生きと生活していくことが、非常に求められるのではないかと感じます。最近では、自然の中にワーキングスペースを設けたり、テレワークが進んで、みどりに癒しを求める方が増えたりなど、みどりの持つ効果に期待が寄せられていると感じます。ですので、かわさきフェアでは、より暮らしの中に溶け込むみどりの活用の仕方や、新しいライフスタイルに合ったみどりの使い方を、市民にわかりやすく、実践したくなる形で提

案していただけたらと思います。そして、若い世代が、緑を通して豊かな生活を送れるようになり、川崎がさらに活気あふれるまちになってほしいと願います。

超高齢社会になる中で、基本計画骨子の理念にもあるように、多様な人々がつながり、そこから、さらに新しいつながりが生まれ、安心して暮らせるまちにしていくことが、これからすごく必要ではないかと思います。かわさきフェアをきっかけに、地域で支えあう関係性を育んでいただきたいですし、これまで、こうしたことにあまり関わりのない若者も含めて、たくさん巻き込んでいていただきたいと思います。

基本理念の取組方針にある、生物多様性の保全に配慮した緑の保全や創出について、先日よみうりランドにある「HANA・BIYORI」という植物園を訪れたのですが、ここでは、普段多摩丘陵の自然を未来に残すための保全活動をしていて、多摩丘陵の自然を活用した庭園があり、敷地内の水やせせらぎは多摩丘陵の井戸水を循環させていました。かわさきフェアでも、もともとの地域の生物多様性に配慮した花やみどりの展示などをしていただきたいと思います。また、よみうりランドでは、花とデジタルのアートショーというものが若者に人気があり、こうしたデジタルとアナログの融合を取り入れれば、若者も興味を持つかと思いました。

○木村担当部長：

ありがとうございます。これまで、多くの方が携わり守ってきたみどりを新しい世代につなげていくことは、かわさきフェアのテーマとしているところですので、いかにして若者にも興味を持ってもらい、巻き込んでいくか、引き続き、お知恵をお借りできればと思いますので、よろしく願いいたします。

若者から少し世代は下がりますが、前回の懇談会で、土に触れたことのないお子さんがいるという、衝撃的なお話をいただきましたが、長井委員、これまでの各委員の話も含めて、あるいは、別の切り口でも結構ですが、御意見をいただけますでしょうか。

○長井委員：

前回、体験や経験といった、子どもたちを育てる上でとても大事な点をお伝えしました。改めて、前回も申し上げたのですが、今の3年生の子どもたちが6年生になる年に、フェアが開催されるのだなと考えつつお話を聞いていました。SDGsや脱炭素について、学校では総合的な学習に限らず、様々な場面で取り組んでいます。基本計画骨子に各区の主な特色が記載されていますが、すでにどの学校においても、それぞれの地域性を活かした学習を行っています。

そうしたとき、何が今の子どもたち、これからの子どもたちに大事かということ、この会議の中で改めて考えていたのですが、体験や経験自体も大事ですが、それについて子どもが自ら発信することと、それを地域に還元することの2点を今の子どもたちに、もう少し頑張ってもらいたいと思っています。発信というのは、自分たちの体験・経験をどう表現し、地域に参画していくかということで、参画は、私のイメージはボランティアや地元の施設と一緒に活動することなどと思っています。現在は、こうしたことが難しいご時世ですが、全国に発信するツールを今の子どもたちは持っているわけですから、可能な範囲でやっていくことはとてもいいことではないかと思いました。

また、私は教員採用試験の試験官を長らく担当しているのですが、受験生に「どうして他都市

ではなく川崎市を受験されたのですか」と質問すると、緑豊かで教育文化施設が整っている、という答えが返ってきます。私は川崎市生まれで、公害の街というイメージがあったのですが、今の教員を希望する世代があえて川崎にいらっしゃるというのが、本当にこの何十年かで、川崎市のイメージが変わったのかなと思いました。

○木村担当部長：

ありがとうございます。先ほどお話した生物多様性地域戦略を策定する際に、理科教育研究会という小学校の理科の先生たちの集まりに伺ったのですが、その際のお話で、理科の人気のないのは受験につながるからだと思っていたが、身近な生活に密接につながっている科目だということのを伝えきれていないからではないかと、議論されていたことを思い出しました。同様に地域活動をお子さんたちと一緒にやっていくということは大事な視点かと思いました。

様々な場所にあるみどりですが、今井委員は造園業という形で、川崎市内のいろいろなみどりを見てきておられるかと思しますので、そういった視点から、御意見などございましたらお願いします。

○今井委員：

先ほど、池田委員からゴミのお話がでましたが、緑はどうしても維持管理が必要で、剪定などにより枝葉のゴミが出ます。現在、川崎市の公園や街路樹から出る剪定枝は焼却処分が主です。これを今後、かわさきフェアをきっかけにリサイクルやバイオマス利用などにシフトチェンジしていければよいと思いました。

フェア会場として、コア会場や協賛・連携会場を整備されていくと思いますが、樹木の管理について、既存の樹木も含めて、樹木の特性を踏まえた管理がなされるようになってほしいと思います。本来、樹種に応じて樹形を考えながら管理すべきですが、それをやっていたらどうしても大変な負担になるというのがあり、現状、街路樹等の剪定において、木の特性を考慮した剪定ができていません。こうした樹木の管理についても、フェアに向けて、またフェア後のことも考えて進めていただければと思います。

○木村担当部長：

ありがとうございます。樹木は生き物であり、それをどのように管理していくかというのは、みどりを扱うにあたって大切な視点だと思います。引き続き、プロフェッショナルとして参画いただき、御協力いただければと思います。よろしく申し上げます。他にいかがでございましょうか。

では、和城委員お願いします。

○和城委員：

これから実行委員会が立ち上がったら、事業計画の8本の柱に分かれ、チームごとにどんどん進めていくことになると思いますが、各委員からの御意見にあったデジタル技術の活用について、アプリや、SNS、5Gなどのデジタル技術はこの8本の柱すべてに絡んでくることだと思います。各事業を進めるにあたって、デジタル系に関しては横串を通すようなマネージャーが必要で、これ

は大変な役割かと思いますが、バラバラになってからでは大変ですので、早い段階でこれを念頭に置いて開発や進行をした方がいいと思います。

○木村担当部長：

ありがとうございます。事業計画等は、従来型をベースに組み立てている面がありますが、今回のかわさきフェアにおいては、違った視点で整理する必要があると考えておりました。特に IT の使い方、活用の仕方として、現場につなげていくツールとして考えた時に、今いただいた御意見は大変重要なことだと思っておりますので、御指摘を踏まえて、取り組みたいと思います。

野村様、お願いします。

○野村調整官：

国土交通省の野村です。オブザーバーの立場ですが、いくつか気付いたことを発言させていただきます。

一つは、基本計画骨子がうまくまとまってきて、趣旨としては、広域的な集客よりも、川崎市民への訴求に重きを置くフェアかと思いますが、一方で、緑化フェアという形で開催すれば、当然市外からも人が来るので、この視点を今後もう少し入れていただければいいかと思います。おそらくこれは「交流」等の話につながるかと思うのですが、先ほど、長井委員から子どもが体験を発信することの重要性といった御意見がありました。この点においても、市外や広域の観点が必要で、市外の方と交流することで川崎市の良いところをさらに発信できたり、逆に、市内の多様な取組の促進につながったりといった意義があると思われましたので、今後進める上で参考にいただければと思いました。

もう一点は、協賛・連携会場での取組を増やしていく上で、外から来た人がコア会場等に訪れたとき、かわさきフェアの取組全体が見えるような、象徴的なプロジェクトができればいいと思います。なかなか難しいと思いますが、ぜひ検討していただきたいと思います。特に、外から来た方は、なかなか全部を見るのが難しいと思いますので、こうしたことは非常に有意義ではないかと思います。以上です。

○木村担当部長：

ありがとうございます。外から来る方に向けた発信という点をしっかり押さえて検討したいと思っております。幅広い視点からの御意見として、共催となる都市緑化機構の椰野様、御意見をいただけますでしょうか。

○椰野理事：

まず、市長自らいろいろな場所で緑化フェアの宣伝をしていただき、感謝を申し上げたいと思います。

開催時期を2回に分ける方式はあまり例がなく、新しい試みとして都市緑化機構も非常に注目しているところです。

私は、これまで川崎市さんと共に様々な仕事をやってきましたが、その中で、全国の範になる試みというのが、緑の保全です。特に、多摩丘陵の緑の保全ですとか、また、生田緑地などの市

民協働の取組は、大臣賞を受賞しており、先進的な事例として各所で紹介されています。これらについても基本計画骨子に反映していただいておりますが、かわさきフェアの中で、さらに取組を深化して行くことが大事かと思えます。

これまでの取組で保全してきた緑も、最近では竹林化など、手を入れられなくなってきた事実もございます。特に、雑木林は萌芽更新が重要です。こうしたことを市民や企業と協働して、森を残していく。100年後の未来、という話ともつながると思えますけれども、そういう取組などもあっていいかなと思えました。

それから、都市緑化機構の立場からしますと、基本計画骨子に記載のとおり一過性に終わることなく、継続的な取組とすることがやはり重要です。過去の事例のうち、個人的に非常に良い取組だと思うのは、小中学校の生徒さんの出展花壇やプランターです。これを通じて、緑に関心を持っていただくことが大事ですし、新しい試みとして、市内の企業さんにも花壇を出展していただくなどがあれば、具体的に100年を見据えてということにつながるかと思えました。

最後に、これはアイデアですが、田代委員はよくご存知だと思いますけれども、長十郎という全国を席卷した梨がありますが、これは実は、発祥の地がこの川崎市です。そして、偶然にもかかわさきフェアの前年度の開催地である仙台市となり町、利府町も梨の産地で、長十郎を栽培しています。こうした点もつながりと捉えて、連携などを考えられると面白いと思えました。以上です。

○木村担当部長：

緑地保全の取組にスポットを当てていただきありがとうございます。お話の中にもございました通り、いかにみどりをよりよい形で残していくかが課題となっておりますので、かわさきフェアの中でうまく回せたらと感じているところです。

皆様から一通り御意見を頂戴しましたが、改めて、やってみたいことでも結構ですし、各委員の御発言を踏まえて、追加で御意見がございましたらいただきたいと思えます。皆さま、大体御意見は出していただいたところでしょうか。

それでは、皆さま、多くの忌憚のない御意見を頂戴しまして、ようやく基本計画骨子の形にまとまり、また、国土交通大臣から正式に開催の同意をいただいて、スタートラインに立ったところでございます。本懇談会に御参画いただいた委員の皆さまにおかれましては、今後もしろいろな形で御助言、御指導、御協力をいただく場面があろうかと思えますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

【(5) その他】

○木村担当部長：

それでは、次第5「その他」に移りたいと思えます。

委員の中には、今年から委員に御参画いただいた方もいらっしゃると思いますが、この懇談会自体は、昨年度の基本構想を策定するところから始まり、今回で、懇談会としては締め括りとなりますので、これまで事務局として進めてまいりました、建設緑政局の磯田局長から総括をさせていただければと思えます。よろしくお願ひいたします。

○磯田局長：

建設緑政局長の磯田でございます。今、話があったとおり、基本計画骨子の策定にあたって、今年度は3回懇談会を開催し、委員の皆さまに貴重な御意見をいただきました。昨年度は、基本構想の策定にあたって、委員の皆さまに御意見をいただきまして、皆さま、本日もいろいろな御意見をいただきましたが、いただいた御意見を参考に、しっかりと進めて行きたいと考えております。

先ほど、お話をさせていただきましたが、市制100周年記念事業との連携もあり、今、実行委員会を立ち上げる準備をしているところでございます。本日、いろいろ御意見をいただきました通り、もうすでに始めないと間に合わない取組等もあり、並行して進めているところでございますので、引き続き御支援をいただければと存じます。長時間にわたって、貴重な御意見等をどうもありがとうございました。

【(6) 閉会】

○木村担当部長：

ありがとうございました。それでは、次第6「閉会」に移ります。

以上をもちまして、基本計画懇談会は全3回開催いたしました。皆さま長い間ありがとうございました。設置要綱に基づき、本日をもちまして当懇談会は廃止となります。これまでの皆さまの御発言、御意見、御助言等に、改めて感謝を申し上げ、これにて終了させていただきたいと思っております。

最後に福田市長より御挨拶をお願いいたします。

○福田市長：

長期間にわたり、御協力いただきありがとうございました。来年度は、実行委員会を立ち上げることとなります。開催は2年後ですから、本当に時間がない。

蛇足ですが、2024年の市制100周年を迎えたときの一つの姿の話を見せてください。川崎市の成人式の式次第には、川崎市歌斉唱があるのですが、今、市歌を誰も歌えない状況です。7年くらい前から、この時の小学6年生が成人する年には、全員が市歌を歌えるようにしようということで、先生方に協力いただいて取り組んでいます。その6年生が成人するのがちょうど市制100周年の年です。こういう風に育っていくものだと思います。

かわさきフェアを契機とした文化づくりにおいては、関係人口を一気に増やしていくことがとても大事だと思いますので、例えば、子どもをきっかけとして親に波及するなどのように、様々な“串”をどうやって通していったらもっと広まるか。こうした点について、これまで、かなり幅広い御意見をいただきましたので、是非これを活かして次につなげていきたいと思っております。

本当にありがとうございました。

○木村担当部長：

以上で懇談会を終了いたします。ありがとうございました。

以上